リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京都市立唐橋小学校(京都府)

【取組内容⑤】 地域や家庭と協力し合って行うデジタルシティズンシップ教育 ~デジタル機器の利用実態に関する児童アンケートの実施~

- 児童のデジタル機器の利用実態を調査するため、Microsoft Formsを利用したアンケートを実施。アンケート結果を基に、 教職員間で結果の分析・今後の取組の方向性の協議を行った。
- また、保護者とも児童の実態や今後の取組の方向性を共有し、家庭に協力を依頼した。

アンケート実施

ICT活用に関する児童の実態を把握するため、児童向けアンケートを実施した。

<主な質問内容>

- スマートフォンやタブレットの使い方について、 家の人との約束を守っているか
- テレビゲームや動画視聴をどれだけしているか。
- タブレットを勉強のために使っているか。
- タブレットは勉強の役に立つと思うか。

結果の分析・協議

アンケート結果から、学校内で児童の実態の分析と今後の取組の方向性を校内で協議した。

児童の 実態

- 家庭でのルールを守っている子が多い。
- 動画やゲームでタブレットを使用している子 が多いが、学習で使用している子は少ない。

今後の 取組の 方向性

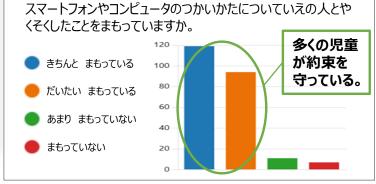
- タブレット端末が学習に使えるツールという 意識を高めることが必要。
- 意識付けのために、タブレット宿題を進めていくことを決定した。

成果

- ◆ アンケート結果を基に、児 童の実態や今後の方向性、 必要な取組を**学校全体で** 共有することができた。
- ◆ また、懇談会等を通じて、 保護者にも児童の実態 や今後の取組を伝え、家 庭に協力を依頼すること ができた。



Formsを利用したアンケートの様子



<家庭へ依頼した協力内容>

- 家庭内のルールを決める際は、「唐橋 ねっとルール」を参考に子どもと話し合って 決めていただきたい。
- オンラインゲームやSNSでの投稿や発言 などについては、保護者の管理下で子ど もたちが使用するようにお願いしたい。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立唐橋小学校(京都府)

【取組内容⑤】 地域や家庭と協力し合って行うデジタルシティズンシップ教育 ~ 「唐橋ねっとルール」を用いた児童・家庭・地域への啓発~

- 令和2年度に「唐橋ねっとルール」を作成し、毎年、児童の実態に応じてアップデートを実施。本ルールを活用して、毎年、 年度初めに全学年で指導を行うとともに、授業等でICTを活用する際の指針として、随時、指導に活かしている。
- 「唐橋ねっとルール」は保護者にも配布し啓発を行うとともに、学校HPへの公開や学校運営協議会等の機会を通じて地域 にも公開することで、学校・家庭・地域での一体的な取組を進めている。



唐橋小学校の全家庭で取り組む事業

唐橋ねっとルール

「唐橋ねっとルール」は、児童の健全なコミュニケーション能力の育成 とスマホ等によるネットでのトラブルを避けるために、子どもたちが使用 するスマートフォンやタブレットにおいて、家庭でルールを決め、正しく 安全なネット利用を促進することを目的とします。

く共通のルール>





- 2 家族以外(子ども同士)でのネットを使っての連絡等は夜8時 までとする。
- 3 SNSの利用(画像・動画・書き込みなど)については、必ず 保護者が責任をもち、各種設定についても保護者が行う。
- 4 フィルタリングサービスを利用する。(あんしんフィルター) <ネット接続するゲーム機を含む>

<各家庭のルール>

上記以外のルールについても、必ず各家庭にて児童と一緒にお考えください。

「唐橋ねっとルール」を活用した児童への指導

- 「唐橋ねっとルール」を活用し、年度当初に道徳や学 級活動の時間等を利用して、低学年であればタブレッ ト端末使用のルールとして説明したり、高学年であれ ば実際のトラブル事例などとともに児童同士で意見交 換を行ったり、学年等に応じた指導を実施している。
- また、授業等でICTを使用する際の指針としても活用 し、授業内容に合わせて、個人情報の取扱いや著作権、 インターネットとの付き合い方について指導を行って いる。

夏休み前日の 学級指導の様子



保護者への啓発、地域への公開も

- 保護者に対しても、懇談会等において「唐橋ねっと ルール」を配布し、スマートフォンやオンラインゲー ムの不適切な利用・過度な利用等についての注意喚起 や保護者と教職員での意見交換を行うなど啓発に努め ている。
- また、学校HPへの公開や学校運営協議会等の機会を通 じて、地域にも必要な取組とともに紹介を行っている。

学校IPで地域へも公開

